

医療福祉連携および包括的支援マネジメントに関する 情報周知のための Web サイト作成

研究分担者：○佐藤さやか¹⁾

研究協力者：川口敬之¹⁾，岩永麻衣¹⁾，五十嵐百花¹⁾，藤井千代¹⁾

1) 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 地域精神保健・法制度研究部

要旨

本研究の目的は地域で活動する支援者が研究成果に関する情報を容易に入手できるよう、本研究班の各分担研究班で実施する調査の結果を紹介するための Web サイトを作成することであった。Web サイト作成を担当する企業を選定し、概算予算を決定済である。同様の目的ですでに運営中の精神障害当事者の地域生活にかかわるエビデンス紹介サイト「こころとくらし」に関するアンケート結果等も参考に、閲覧者にとって視認性が高く、利用しやすいコンテンツページのレイアウトを検討する。2023 年度中に本研究班でデータ収集集中である「精神科医療における外来ケースマネジメント実践と診療報酬算定に関する実態調査」（機関調査および事例調査）の結果を反映した Web サイトを 2023 年度中に作成、公開する予定である。

A. 研究の背景と目的

1990 年代中頃よりエビデンスに基づく医療が世界的に推奨されるようになり¹⁾、今日臨床医学全般において科学的根拠に基づく実践（Evidence-based practice：EBP）を活用することの重要性は論をまたない。わが国の地域精神保健領域においても、EBP の活用に関する議論は以前と比べて増えたように思われる。他方、研究の結果が実際の臨床活動に活かされていないギャップも指摘されている²⁾。

「研究と臨床のギャップ」を主たる研究テーマとしている実装科学の文脈では、技術革新の拡散の枠組みを使って、EBP が普及する際のプロセスが説明されている³⁾。この knowledge-attitude-practice (KAP) プロセスでは、①知識-新たな技術（ここでは EBP に

該当）の存在を知り、その機能（EBP の効果に該当）をある程度理解する、②説得-新たな技術に対する態度を形成する、③意思決定-新たな技術を採用するか否かの選択につながる活動を行う、の 3 段階が想定されている。我が国の地域支援の場で EBP の普及が進まない背景には、この KAP プロセスの最初の 1 歩である「EBP に関する知識を得て、その効果について理解する」という段階に障壁があることが考えられる。他方、多忙な日常臨床の合間に支援者がこうした情報を能動的に調べることは簡単ではない。

そこで本分担研究班では地域で活動する支援者が研究成果に関する情報を容易に入手できるよう、本研究班全体で実施する調査の結果を紹介するための Web サイトを作成する。

本年度は初年度であり、コンテンツとなる調査自体の結果がまだ出ていない。このため準備状況について報告する。

B. 方法

-Web サイト作成準備

・複数の企業から見積を入手し、Web サイト作成を依頼する企業を選定、概算の予算を決定済みである。

-コンテンツページのレイアウト検討

分担研究者らは2019年から2021年にかけて厚生労働科学研究費補助金「精神保健・福祉に関するエビデンスのプラットフォーム構築及び精神科長期入院患者の退院促進後の予後に関する検討のための研究(202118003B)」に取り組み、コクランレビューを中心とした精神障害当事者の地域生活にかかわるエビデンス紹介サイト「こころとくらし」(<https://cocokura.ncnp.go.jp/>)を開発した。現在も運営を継続しており、同サイトのコンテンツページの視認性向上などを目的にアンケート実施を予定している(図1)。本研究班で作成するWebサイトはこの結果を踏まえてコンテンツページのレイアウト等を検討する。

C. 今後の予定

現在データ収集中である、「精神科医療における外来ケースマネジメント実践と診療報酬算定に関する実態調査」(機関調査および事例調査)の結果を反映したWebサイトを2023年度中に作成、公開する予定である。

D. 健康危険情報

なし

E. 研究発表

1. 論文発表

佐藤さやか, 五十嵐百花, 川口敬之, 藤本悠, 田村早織, 小川亮, 佐々木奈都記, 板垣貴志, 山口創生, 藤井千代: 精神障害当事者の地域生活にかかわるエビデンス紹介サイトの開発とその意義. 臨床精神医学 51(6):693-700, 2022.

2. 学会発表

なし

F. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

文献

- 1) 正木 朋也, 津谷 喜一郎. エビデンスに基づく医療 (EBM) の展開から学ぶもの—EBM 普及に伴い経験した課題と解決策—. 日本評価研究. 2010;10(1):3-16.
- 2) Silverman, W. K. & Hinshaw, S. P. (2008). The Second Special Issue on Evidence-Based Psychosocial Treatments for Children and Adolescents: A 10-Year Update. Journal of Clinical Child & Adolescent Psychology, 37, 1-7.
- 3) Rogers, E. M. (2004). Diffusion of innovations (5th ed.). New York: Free Press.
- 4) 佐藤さやか, 五十嵐百花, 川口敬之, 藤本悠, 田村早織, 小川 亮, 佐々木奈都記, 板垣貴志, 山口創生, 藤井千代: 精神障害当事者の地域生活にかかわるエビデンス紹介サイトの開発とその意義. 臨床精神医学, 51 (6) , 693-700, 2022.6.

図1 「こころとくらし」のアンケート画面の一部

Q13.あなたが下図のようなページを開いたとき、どの部分をどの程度見ましたか。各部分について、「あまり見なかった（存在をほとんど認識しなかった）」、「軽く見た（認識したが内容までは詳しく読まなかった）」、「よく見た（内容を理解するために詳しく読んだ）」の3段階でお答えください。 必須

Q13-1



Q13-2

統合失調症に対する認知行動療法+標準的ケア VS. 標準的ケア

基礎情報

対象者	統合失調症もしくは統合失調症に関連する疾患を持つ人
総論文の件数	30件
研究参加人数	6,871名
最終発表日	2017年2月1日
結果の調べ方	標準的ケアに認知行動療法を追加したグループと標準的ケアのみ（通常のケア）を比較

Q13-3, 4

統合失調症に対する認知行動療法は標準的ケアと比べて何に効果があるか？

アタリ目(項目)	結果
統合失調症に対する認知行動療法+標準的ケア vs. 標準的ケアのみ	
症状改善	よく見た
全体的な効果	よく見た
機能	軽く見た
精神状態	よく見た
社会的機能	よく見た
生活の質	よく見た
治療の満足度	よく見た

Q13-5, 6

留意点

引用情報

イラストと説明

あまり見なかった

軽く見た

よく見た

コクランレビューの基礎情報

あまり見なかった

軽く見た

よく見た

「何に効果があるか？」の表

あまり見なかった

軽く見た

よく見た

表の説明

あまり見なかった

軽く見た

よく見た

留意点

あまり見なかった

軽く見た

よく見た

引用情報

あまり見なかった

軽く見た

よく見た